

平成 22 年度事業概況

平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで

1. 定時会員総会に関する事項

平成 22 年 5 月 28 日、アクチュアリー会大会議室にて会員総会を開催し、

- 第 1 号 平成 21 年度事業概況に関する件
- 第 2 号 平成 22 年度事業計画（案）承認の件
- 第 3 号 平成 21 年度決算承認の件
- 第 4 号 平成 22 年度予算（案）承認の件
- 第 5 号 会費分担に関する件
- 第 6 号 公益社団法人への移行に関する件

を諮り、原案どおり承認された。

2. 会員の異動状況

本年度の会員の異動は、賛助会員については入会 4 法人、退会 4 法人、個人会員については入会 294 名、退会 118 名があり、平成 23 年 3 月末の会員数は、下表のとおりとなった。

入会賛助会員

アメリカン・ホーム・アシユアランス・カンパニー
エーオン ベンフィールド ジャパン株式会社
ミュンヘン再保険会社 日本支店（生命再保険）
メディケア生命保険株式会社 以上 4 法人

退会賛助会員

スミセイ損害保険株式会社
タワーズワトソンリスクコンサルティング株式会社
ニッセイ同和損害保険株式会社
ミュニーックリージャパンサービス株式会社 以上 4 法人

名 誉 会 員	5 名
正 会 員	1,295
準 会 員	994
研 究 会 員	2,110
小 計	4,404
賛 助 会 員	118 法人
合 計	4,522 名・法人

3. 事業概況

〔試験関係〕

(1) 平成 22 年度資格試験の実施

平成 22 年 12 月 24 日、27 日および 28 日の 3 日間、東京（早稲田大学西早稲田キャンパス）および大阪（天満研修センター）において実施し、平成 23 年 2 月 16 日に合格者を発表した。第一次試験の受験科目総数は 4,219 科目、うち合格科目数は 754 科目、第二次試験の受験科目総数は 858 科目、うち合格科目数は 98 科目、全科目合格者は 48 名であった。

(2) 教科書の改訂

「生保 1 第 7 章 医療保険」、「生保 1 第 10 章 商品毎収益検証」、「生保 2 第 1 章 生命保険会計」、「生保 2 第 7 章 内部管理会計」、「損保数理」および「年金数理」を改訂した。

〔教育・研修・研究発表関係〕

(1) 平成 22 年度アクチュアリー講座の実施

平成 22 年 5 月 10 日から平成 22 年 10 月 14 日の期間、基礎講座 12 科目および特論講座 8 科目を実施した。受講者数は基礎講座 176 名、特論講座 46 名であった。

(2) 平成 22 年度アクチュアリー追加演習講座の実施

平成 22 年 9 月 8 日から平成 22 年 11 月 29 日の期間、生保数理演習、損保数理演習、年金数理演習およびモデリング演習の 4 科目を実施した。受講者数は生保数理演習 60 名、損保数理演習 86 名、年金数理演習 60 名、モデリング演習 38 名であった。

(3) 平成 22 年度年次大会・IT 研究大会の開催

年次大会は、平成 22 年 11 月 17 日、18 日の 2 日間、経団連会館および東京ステーションコンファレンスにおいて、IT 研究大会は、平成 22 年 11 月 25 日、26 日の 2 日間、三井生命本店（大手町野村ビル）において開催した。

(4) SOA EBIG (Equity Based Insurance Guarantee Conference) セミナーの開催

平成 22 年 5 月 31 日、6 月 1 日の 2 日間、東京において SOA が日本アクチュアリー会等と共催で実施した。当セミナーにおいて、当会からは野呂 順一 君（日本生命）がランチ&ウェルカムスピーチを行った。

(5) 例会の開催

第 1 回例会 平成 22 年 4 月 16 日

「米国企業年金の歴史と現状」

小野 正昭 君（みずほ年金研究所）

第 2 回例会 平成 22 年 7 月 5 日

「保険会社における資本管理の世界的な潮流」

Greg Solomon 氏 (Swiss Re)

Carl Moxley 氏 (Swiss Re)

第 3 回例会 平成 22 年 8 月 2 日

「国際的な CERA という資格」

S. Michael McLaughlin 氏 (SOA)

第 4 回例会 平成 22 年 10 月 28 日

「アメリカアクチュアリー会の負債のモデリングプロジェクト

IASB の保険契約の公開草案：今どこにいて、これからどこに向かうのか？」

R. Thomas Herget 氏 (Risk Lighthouse)

第5回例会 平成22年11月5日

「ミュンヘン再保険におけるERMおよびソルベンシーIIの影響」

Joachim Oechslin 氏 (Munich Re Group)

第6回例会 平成23年2月8日

「ヨーロッパの生命保険会社とハノーバー生命再保険会社におけるソルベンシーII
開発現場からの最新情勢報告」

Wolf S. Becke 氏 (Hannover Life Re)

(6) ムーンライトセミナーの開催

① 「経済価値ベースの保険負債およびソルベンシー計算に係る実務的課題」

星野 孝典 君 (ミリマン・インク)

② 「保険ERMにおける内部モデルおよびリスクの統合手法について」

石岡 秀之 氏 (あらた監査法人・プライウォーターハウス・パース)

小澤 栄作 氏 (あらた監査法人・プライウォーターハウス・パース)

西原 立 君 (あらた監査法人・プライウォーターハウス・パース)

③ 経済価値評価手法の理論的な整理(ヘッジ不能リスクに対するリスクマージンを中心に)

関口 健太郎 君 (ハノーバー再保険)

④ 損保における営業保険料(付加保険料)弾力化の実例

セミナー部会委員

(7) 実務研修会の開催

第1回実務研修会 平成22年12月7日 「アジアの生保市場について」

Paul Sinnott 氏 (Milliman)

第2回実務研修会 平成23年2月17日 「医療技術の進歩と生命保険」

丹下 博史 氏 (第一生命経済研究所)

(8) プロフェッショナルリズム研修の実施

平成23年2月23日、正会員(今年度の資格試験で全科目に合格した準会員を含む)および準会員(今年度の資格試験で基礎科目すべてに合格した者を含む)を対象に下記の研修内容で実施した。今年度の受講修了者は正会員18名、準会員69名であった。

IAA シラバスとプロフェッショナルリズム	村田 富生 君 (三井生命)
アクチュアリーと行動規範について	奈良 伸一 君 (明治安田生命)
生保のプロフェッショナルリズム	中村 亮一 君 (日本生命)
損保のプロフェッショナルリズム	木村 和弘 君 (日本興亜損害)
年金のプロフェッショナルリズム	片寄 郁夫 君 (りそな銀行)
	藤井 康行 君 (住友信託)

(9) e-ラーニングの検討

H23年度からのe-ラーニング稼働に向け、広報委員会を中心に検討を行った。

〔調査・研究活動〕

(1) 標準死亡率諮問委員会の開催

平成22年11月4日に開催された第16回標準死亡率諮問委員会において、「生保標準生命表2007(死亡保険用)」、「生保標準生命表2007(年金開始後用)」および「第三分野標準生命表2007」について、平成23年度に継続適用することが了承された。

(2) 国際会計基準・保険監督の国際基準への対応

国際会計基準および保険監督の国際基準については、それぞれ IASB（国際会計基準審議会）ならびに IAIS（保険監督者国際機構）において精力的な検討がなされており、それぞれの機関会員である IAA（国際アクチュアリー会）は、アクチュアリー専門職団体として、保険契約の国際会計基準（IFRS4）に対応する国際アクチュアリー実務基準の作成や IAIS の委託研究を行う等の活動を行っている。IAA 正会員メンバーである当会においても、生保委員会、損保委員会等の関連部会において検討を進めるとともに、IAA の委員会活動に積極的に参画している。なお、企画委員会傘下の国際基準対策 PT において、関係部会を含めた進捗管理や、生保・損保間の調整および対外的な窓口の一本化を図っている。

(3) 経済価値ベースのソルベンシー規制への対応

「経済価値ベースのソルベンシー規制の導入に係るフィールドテスト」仕様書に対し、国際基準対策 PT 傘下にソルベンシー検討 WG（生保）・ソルベンシー検討 WG（損保）を設置し、検討を行った。

(4) 実務ガイドの作成

生命保険会社の保険計理人の関与事項の内容について、一般的な生命保険会社において現在考えられる範囲や基本的な考え方を整理し、一定の客観性を持たせるとともに、保険計理人の実務の支えとなることを目的として作成している「生命保険会社の保険計理人の実務ガイド」に関して、「支払備金」および「未収保険料」をとりまとめた。

(5) ERM に関する国際資格創設への参画

「グローバルな ERM 資格認定に関する協定書」への署名を踏まえ、企画委員会傘下の ERM 資格検討 PT において、日本における ERM に関する資格制度等の検討を行った。

(6) 研究会活動

現在以下の 10 の研究会で活発な研究を行っている。各研究会の活動状況等について、当会ホームページに掲載するとともに、研究成果としてまとめたものについては、会報別冊等を通じて公表した。

外国文献研究会、ASTIN 関連研究会、巨大リスク研究会、年金基礎研究会、年金理論研究会、医療保険研究会、社会保障問題研究会、ALM 研究会、AFIR 関連研究会、デリバティブ研究会

(7) 女性アクチュアリー輝きの会の設置

女性アクチュアリーが調査・研究を進め、互いに研鑽することを目的として「女性アクチュアリー輝きの会」を設置した。

〔意見表明〕

(1) IAA カウンシルでの投票（電子投票を含む）

- ① 平成 22 年 8 月、IAA の 2011 年度会費等に関して、賛成として投票を行った。
- ② 平成 22 年 10 月、IAA の会長・次期会長および事務局長の交代等に関して、賛成として投票を行った。
- ③ 平成 23 年 1 月、中国アクチュアリー会を正会員組織とすることに関して、賛成として投票を行った。

④ 平成 23 年 3 月、IAA 戦略目標の一部変更等に関して、賛成として投票を行った。

(2) IAA 迅速処理適用案件

以下の案件に対する IAA 意見について、当会からは迅速処理適用に反対する意見は表明しなかった。

- ① 平成 22 年 4 月、IAIS「監督上のソルベンシー目的のための資本十分性に関する指針」等
- ② 平成 22 年 6 月、IASB「金融商品に関する公開草案：償却費用と減損」
- ③ 平成 22 年 7 月、IASB「金融負債に関する公正価値オプションに関する公開草案」
- ④ 平成 22 年 7 月、IASB「概念フレームワーク-報告企業に関する公開草案」
- ⑤ 平成 22 年 8 月、IAIS「保険コアプリンシプル 13 再保険およびその他リスク移転等に関する基準/指針の草案」
- ⑥ 平成 22 年 9 月、IASB「確定給付制度に関する公開草案-IAS19（従業員給付）の改正」
- ⑦ 平成 22 年 9 月、IASB「公正価値測定に関する測定の不確実性分析の開示に関する公開草案」
- ⑧ 平成 22 年 10 月、IASB「顧客との契約から生じる収益に関する公開草案」に対する IAA 意見
- ⑨ 平成 22 年 11 月、IASB「保険契約に関する公開草案」
- ⑩ 平成 22 年 12 月、IAIS「保険コアプリンシプル 20 ディスクロージャーの草案」
- ⑪ 平成 23 年 1 月、IASB「発効日と移行方法に関する意見募集」

(3) 平成 22 年 5 月、ASBJ（企業会計基準委員会）に対し、「退職給付に関する会計基準（案）」に対する意見を年金数理人会と連名で提出した。

(4) 平成 22 年 9 月、IASB（国際会計基準審議会）に対し、確定給付制度に関する公開草案「Defined Benefit Plans / Proposed Amendments to IAS19」に対する意見を年金数理人会と連名で提出した。

(5) 平成 22 年 11 月、IASB（国際会計基準審議会）に対し、保険契約に関する公開草案「Insurance Contracts」に対する意見を提出した。

(6) 平成 22 年 12 月、金融庁からの「経済価値ベースのソルベンシー規制の導入に係るフィールドテスト」仕様書の検討依頼に対して、報告書「フィールドテスト仕様書に対する考察（中間報告）」を提出した。

〔国際関係〕

(1) 第 39 回東アジア・アクチュアリー講座（ASEA）の実施

平成 22 年 7 月 26 日から 8 月 6 日までの 12 日間にわたり、東アジアを中心とする 12 地域から 20 名の参加を得て、保険数理に関する特定のテーマについての講座を実施した。

(2) IAA 活動

平成 22 年度末現在の当会の IAA 委員会の委員等は以下のとおりであり、IAA の委員会活動に積極的に参画している。

Council Delegate	五十嵐 勉 君	Insurance Accounting Committee	田口 茂 君 中村 吉男 君
Presidents' Forum	野呂 順一 君	Actuarial Standards Subcommittee	田口 茂 君 中村 吉男 君 橋本 英司 君
Alternate Delegate	中野 陽介 君	Insurance Regulation Committee	穴田 祐史 君 河野 年洋 君
Interim Actuarial Standards Subcommittee	坂本 純一 君 中村 亮一 君 中村 吉男 君	Reinsurance Subcommittee	河野 年洋 君
Strategic Planning Subcommittee	河野 年洋 君	Solvency Subcommittee	河野 年洋 君
Mortality Working Group	西村 泰介 君	ComFrame Task Force	穴田 祐史 君 河野 年洋 君
Due Process Task Force	吉村 雅明 君	Professionalism Committee	吉村 雅明 君
Nominations Committee	日笠 克巳 君	Social Security Committee	坂本 純一 君
Accreditation Committee	五十嵐 勉 君	Pension and Employee Benefits Committee	小野 正昭 君
Advice and Assistance Committee	辻 芳彦 君	ASTIN Section	森本 祐司 君
China Subcommittee	辻 芳彦 君	Health Section	坂本 純一 君
Education Committee	村田 富生 君	IACA Section	吉田 英幸 君
Syllabus Review Task Force	村田 富生 君	Life Section	辻 芳彦 君
Enterprise Financial Risk Committee	吉村 雅明 君	PBSS Section	坂本 純一 君

(3) 国際会議等への派遣

以下のとおり国際会議等に会員を派遣した。

- ① 平成 22 年 5 月 7 日
吉村 雅明 君 IAA 実務基準のコンバージェンスタスクフォース会議
(於：イギリス ロンドン)
- ② 平成 22 年 6 月 7 日～9 日
櫛引 亮 君 ヘルス・インシュアランス・カンファレンス
(於：シンガポール)
- ③ 平成 22 年 9 月 26 日～28 日
村田 富生 君、日笠 克巳 君 中国アクチュアリー会年次大会 (於：中国 南京)
(IAA 代表として出席)
- ④ 平成 22 年 9 月 27 日～29 日
田口 茂 君、中村 吉男 君 IAA 保険会計委員会 (於：カナダ トロント)
- ⑤ 平成 22 年 10 月 9 日～13 日
五十嵐 勉 君、野呂 順一 君、吉田 英幸 君、坂本 純一 君、穴田 祐史 君、
河野 年洋 君、中野 陽介 君、中村 吉男 君、西村 泰介 君、橋本 英司 君、
村田 富生 君、吉村 雅明 君、日笠 克巳 君 (IAA 代表として出席)
- ⑥ 平成 22 年 10 月 17 日～20 日
石井 一真 君 SOA 年次大会 (於：アメリカ ニューヨーク)
- ⑦ 平成 22 年 10 月 24 日～29 日
河野 年洋 君 IAIS 年次総会・三半期会議 (於：アラブ首長国連邦 ドバイ)
- ⑧ 平成 22 年 11 月 7 日～10 日
陣野 康幸 君 CAS 年次大会 (於：アメリカ ワシントン DC)
- ⑨ 平成 22 年 12 月 7 日～8 日
河野 年洋 君 IAIS 金融安定委員会・コムフレームタスクフォース
(於：スイス バーゼル)

- ⑩ 平成 22 年 12 月 12 日 第 16 回 EAAC 準備会議 (於：マレーシア クアラルンプール)
長舟 貴洋 君、中野 陽介 君
- ⑪ 平成 23 年 2 月 17 日～18 日 IAIS 金融安定委員会・コムフレームタスクフォース
河野 年洋 君 (於：スイス バーゼル)

(4) Webinar への参画

平成 23 年 1 月 13 日～14 日に行われた ERM に関する Webinar の開催に SOA 等とともに参画した。

〔評議員会〕

(1) 平成 22 年度評議員会の開催

平成 23 年 3 月 9 日、経団連会館にて開催した。平成 22 年度の事業概況、平成 23 年度の事業計画およびアクチュアリー試験教育制度について審議した。

〔産学共同〕

(1) 京都大学より保険数学の講師派遣の依頼があり、大嶋 孝造 君 (住友生命)、鈴木 浩吾 君 (大同生命)、鈴木 剛 君 (住友生命)、中山 素生 君 (日本生命) および南 嘉博 君 (日本生命) を派遣した。

(2) 大阪大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、青井 知幸 君 (日本生命)、金澤 巖 君 (大同生命) および鈴木 剛 君 (住友生命) を派遣した。

(3) 神戸大学より保険数理の講師派遣の依頼があり、鈴木 剛 君 (住友生命) を派遣した。

(4) 東京大学より社会数理特別講義の講師派遣の依頼があり、辻 芳彦 君 (大同生命) を派遣した。

(5) 平成 22 年 11 月 30 日～12 月 2 日に京都大学において開催された保険数学集中講義に Laurent Devineau 氏 (Milliman) を招聘した。

(6) 平成 23 年 7 月開催予定の APRIA 年次大会の組織委員会に野呂 順一 君 (日本生命) および中野 陽介 君 (日本生命) が委員として参画している。

〔表彰関係〕

(1) 平成 21 年度資格試験成績優秀者の表彰

① 理事長特別賞・理事長賞の授与

平成 22 年 5 月 28 日に、出井 基晴 君 (マーサー)、奥山 晃平 君 (日本生命)、渡辺 裕介 君 (アリコジャパン)、野村 俊一 君 (損保ジャパン) および新居 悠輝 君 (全共連) に理事長賞を授与した。理事長特別賞は該当がなかった。

② 科目別成績優秀賞の授与

同日、次の 6 名を表彰した。

柴田 大樹 君	(日本興亜損害)	数学
鈴木 みちお 君	(個人)	生保数理
比津 貴行 君	(三菱 UFJ 信託)	損保数理

大谷 真吾 君	(みずほ信託)	年金数理
吉田 興正 君	(三菱UFJ信託)	会計・経済・投資理論
加瀬 航太 君	(アクサ生命)	生保2

(2) 優秀論文の表彰

平成 22 年 11 月 17 日、年次大会において次のとおり表彰した。

① 優秀論文の表彰 1 編

「生命保険事業における複製ポートフォリオの応用」

三石 宣史 君 (ミュンヘン再保)

② IT 関係優秀論文の表彰 2 編

「保険業界における OSS (Open Source Software)活用の研究」

IT 研究会第 2 グループ

「401k 年金の動向とシステムの方向性について」

IT 研究会第 7 グループ

〔広報・出版活動〕

(1) 広報活動

① 学生向け冊子「アクチュアリー—その活躍の紹介—」の配布

② 「アクチュアリーセミナー」の実施

主に学生を対象としたセミナーを、平成 22 年 11 月 13 日に東京で、12 月 4 日に大阪で開催した。各々の参加者は 61 名および 28 名であった。

(2) 情報提供機能の充実

H23 年度からのホームページ拡充に向け、広報委員会傘下の HP リニューアル部会を中心に検討を行った。

(3) 会報等の刊行

次のとおり会報をはじめ各種の刊行物を発行した。

① 会 報 第 63 号

② 会報別冊

第 245 号 「第 2 回アクチュアリー海外研修報告」

第 246 号 「平成 21 年度資格試験問題集」

第 247 号 「保険業界における資本とソルベンシーにかかわるエンタープライズリスクマネジメント(ERM)に関する報告書」

第 248 号 「MCEV 原則」

第 249 号 「EU ソルベンシー II にかかる CEIOPS 勧告および日本におけるインプリケーションに関する調査・研究 (中間報告)」

第 250 号 「保険者によるリスク・資本管理のための内部モデルの使用に関する文書」

第 251 号 「LEE-CARTER モデルを使用した長寿リスクおよび年金保険のプライシング・リスクのモデル化とリスク管理」

第 252 号 「2009 年度 ERM に関する Webinar」

第 253 号 「第 50 回 IT 研究大会報告」

③ アクチュアリージャーナル 第 72 号～第 75 号

④ アクチュアリージャーナル 特別号「リスクと保険」

〔関西支部〕

(1) 支部総会

平成 22 年 5 月 24 日、住友生命 本社にて支部総会を開催し、

第 1 号 平成 21 年度事業概況に関する件

第 2 号 平成 21 年度決算および平成 22 年度予算（案）承認の件

第 3 号 平成 22 年度事業計画（案）承認の件

を諮り、原案どおり承認された。

(2) 関西支部例会の開催

委員長 浅野 淳 君（住友生命）

平成 22 年 9 月 17 日

「Actuaries and The Financial Crisis: Challenges and Lessons Hopefully Learned」

Paul Embrechts 氏(スイス工科大学チューリッヒ校)

平成 23 年 1 月 13 日

「国際会計基準を巡る動向— I A S B の保険契約公開草案を中心に—」

中村 吉男 君（住友生命）

平成 23 年 2 月 18 日

「公的年金・私的年金の役割分担の再検討：三層型からリレー型へ」

稲垣 誠一氏（一橋大学 経済研究所）

平成 23 年 3 月 11 日

「平成 22 年度関西支部分科会活動報告」

各分科会より報告

(3) 関西支部研究会活動

次の 5 分科会において研究調査活動を行った。

保険計理分科会 委員長 三谷 龍介 君（日本生命）

海外年金研究会 委員長 山内 宗幸 君（日本生命）

年金分科会 委員長 山本 和彦 君（りそな銀行）

システム分科会 委員長 伊島 直樹 君（富士火災）

アクチュアリーセミナー 委員長 浅野 淳 君（住友生命）

また、関西支部の会員がより専門分野の知識を身につけることを目的としたセミナー（関西セミナー）を 1 回開催した。

平成 23 年 2 月 9 日

「イギリスの年金制度」、「各国の年金制度」、「コンピュータについて」、

「金利モデルに関する考察」、「支払備金における予測誤差」、「VaR の性質と問題点」

京都大学保険ゼミ 修士学生

(4) 関西支部アクチュアリー講座の実施

関西支部においてアクチュアリー講座を実施した。受講者数および講師は次のとおりであった。

	受講者数	講 師
生保数理（8～10 月）	6 名	鈴木 浩吾 君（大同生命）
年金数理（8～10 月）	9 名	山田 彩乃 君（りそな銀行）
損保数理（8～10 月）	9 名	宮武 宏典 君（日本生命）